

3 早期診断・早期対応

● 認知症は早期診断と早期対応が大切です

メリット

1 治療可能な場合や一時的な症状の可能性がります

認知症状の原因によっては、早い段階で治療を開始することで治る場合や一時的な症状の可能性もあります。

正常圧水頭症・脳腫瘍・慢性硬膜下血腫・甲状腺ホルモン異常・栄養状態・薬物やアルコールに関連するものなど

2 進行を遅らせることが可能な場合があります

認知症の前段階である軽度認知障害 (MCI) のうちに対応することで、その後の症状が緩やかになったり、維持することが期待できます。

3 今後の生活に備えることができます

症状が軽いうちに、ご本人やご家族が認知症についての理解を深め、さまざまな制度やサービスの情報を得ることで、今後の生活の備えや見通しを立てることができます。

● どこに受診すればいいの？

まずは、普段から診てもらっているかかりつけ医に相談しましょう。必要であれば、専門医を紹介してもらえます。

一般的には神経内科、精神科、心療内科、脳外科、あるいは「もの忘れ外来」というような専門外来で診てもらえます。

市川市医師会では、認知症への取り組みの中で「認知症相談医」の一覧を掲載しています。

市川市医師会ホームページ <http://ichii.or.jp>



● 受診する際のポイント

医師の診断には、ふだんの本人の様子を知っている家族の話が役立ちます。付き添う家族は、下記のようなことをあらかじめメモにして整理しておくといよいでしょう。



- ・いつからどのような症状があるのか
 - ・どのような事で困っているのか
 - ・今までかかった大きな病気や手術・入院歴
 - ・服用中の薬や服薬状況について
- ※お薬手帳があれば持参しましょう。



● 認知症と診断されたら

「認知症」という疾患を理解すると共に、下の例を参考に、どのように対応していけばよいかを知りましょう。高齢者サポートセンターに相談するのもよいでしょう。

適切な治療

進行を緩やかにし、症状の緩和が期待できます。

- 定期的に受診し医師に様子を伝えましょう。
- 薬が処方されたら、きちんと服用しましょう。

様々なサポートの活用

介護を抱え込まないようにしましょう。

- 公的な制度を利用しましょう。
- 地域や社会でのサポートを得るようにしましょう。
- 地域での交流に参加してみましょう。

心身機能の維持

意欲を持ち、身のまわりのことが自分でできる状態を保ちましょう。

- 運動習慣を持ちましょう。
- 家庭や地域で役割を持ちましょう。
- 好きなことや人との交流を続けましょう。

家庭での過ごし方

本人が安心して暮らせる環境をつくりましょう。

- 本人の気持ちに寄り添うように接しましょう。
- これまでの習慣を大事にしながら、症状に応じて生活を工夫しましょう。